



Workshop

分科会③ 流域 上流の暮らしは どうなって いるのだろう



●ファシリテーター
大阪府立大学大学院
寺内 雅晃 氏



●アドバイザー
江の川流域総合研究会
小田 博之 氏



●アドバイザー
太田川河川事務所長
西牧 均 氏



私たちの分科会には上流に住んでいる人と下流に住んでいる人がほぼ半分ずついました。みんなの話を聞いてみると、上流に暮らす人やきれいな川のある地域の人たちは水に対する意識も高く、生活のなかで川を身近に利用していますが、都会や下流に暮らす人たちは水にも上流の人々の暮らしにも関心が低く、上流と交流するチャンスもほとんどありません。関心のある人も川で遊んだり自然に触れたりするのではなく、汚い川を環境問題としてしか考えていない人が多いということがわかつりました。

「上流部は、人口がアンバランスになっていて、高齢化が進んでいます。私の住んでいる羽須美村もパワーは5分の1になってしましました。もっと田舎のよさを知って、たくさん的人が暮らしてほしいんです。田舎は食べ物も豊富にあるし、安心で安全な暮らし方ができますが、残念ながら不便です。でも、都会がいいという価値観をあらためて、不便を楽しんではいけない」とアドバイザーが話すと、子どもたちは「体験活動などでたまにいくのはいいけどねえ」「ゲームセンターやカラオケのような遊べるところがないし…」「今まで自然に触れる機会があまりないのでわからない」。やっぱり、水や川に関心を持つには子どものころから本物の自然に触れていないとむずかしいのかなあ。

でも、川はつながっているんだ。まず、上流と下流がふれあうきっかけをつくらないと…。交流するにはどうしたらいいのかなあ。

上流の人も下流の人もみんな水を使うんだから、生活廃水や工場廃水を川に流さないために、下水道の整備とともに大事だけど、子どもも大人もそれから企業も、私たちみんなが意識を持って考え続けないと…。

…で、私たちが考えたこと。

- ・上流、下流ともお互いの地域や人を知ることから始めよう。
- ・いろんな活動団体やフォーラムなど、気づかない人に水の大切さを知らせていくきっかけをつくることが大切だよね。
- ・NPOなどの活動は地味で、あまり知られていない。いきなり難しい話じゃなくて、活動の楽しさを伝えたり、遊びから入るほうがいいと思う。
- ・学校にビオトープをつくったらいいと思う。
- ・フォーラムや活動に積極的に参加する意識を持とう。そして、楽しさをアピールしよう。
- ・施設をつくるより身近な自然を活用して、水の大切さに気づかない人を気づかせる働きかけをしよう。

このフォーラムに参加した私たちが、ここで知ったこと、学んだことを伝えていこう。
それが上流と下流をつないで水の環境をよくしていく第一歩になると思います。



●アドバイザー
太田川河川事務所調査設計課長
坂本泰正 氏



●アドバイザー
中国・地域づくり交流会
平木 久恵 氏

2日目・10/12sun. Fieldwork フィールドワーク



草木染を体験。草や花、木の実などを使って染めます。

加計町のまちなみと丁川のビオトープで生き物を観察しました。

